

参考資料 3

平成 16 年 10 月 25 日
国民生活局調査室

「新しい地域社会」シンポジウム イン 盛岡」について (報告)

日時 : 10月 24日 (日) 13:30 ~ 17:00

場所 : 岩手県盛岡市 (ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング)

1. 本シンポジウムは、平成 16 年度国民生活白書で取り上げられた、地域に根ざした多彩な活動を行っている先進事例等を題材に、地域住民と「日本 21 世紀ビジョン」生活・地域 WG メンバーが直接議論出来る機会を持つことにより、有益なビジョンの策定につなげることを目的とするもの。参加者、プログラムは別紙の通り。
2. 冒頭、増田岩手県知事から、前日の新潟県中越地震にも言及しながら、防災はじめ様々な場面で地域の力というものが発揮されており、また元来東北には農漁村での助け合いの伝統があり、そうした原点に戻ることによって、地域活性化をめぐる様々な議論に貢献出来るのではないかと、という趣旨の挨拶があった。
3. 八代尚宏日本経済研究センター理事長 (生活・地域 WG 主査) による基調講演、「地域間競争の時代」では、「少子高齢化・グローバル化の流れの中で、サービス業、特に医療・福祉・教育等の生活関連サービス業の競争力が高まらなければならない。そのためには官主体ではなく住民の知恵で地域独自の取り組みを進めることが重要で、経済改革特区にみられるように、地域の多様性を発揮させつつ、選択ができる社会の実現が必要である。」と強調された。
4. 先進事例報告では、「アサザ基金」(茨城県)から、行政には発想出来ない活動をこれからも進めていきたいこと、NPO「不忘アザレア」(宮城県)からは、ボランティア活動を上手く進めて行くにはコスト管理やマネージメント能力の向上が重要であること、西和賀わらび銀行」(岩手県)からは、地域通貨は「一儲け」する話でなく「人儲け」としてゆっくり育てていきたいと考えていること、等が発表された。
5. パネル・ディスカッションでは、「NPO だけでなく消防団等古い地域活動も大事にしなが、非政府の公共性を育てたい。その際には寛容さと節度が必要」、豊かさとはクリエイティブな生き方が出来ること。グローバルな価値観だけで判断するのではなく、地域独自の価値観も大事にしたい」、「日本人であると共に、その地域

の人であることを誇りに思えるような社会にしていきたい」、「個人では出来ないが、コミュニティ単位でなら出来ることはたくさん見つかる」等、活発な議論が行われた。

- 6.総括対談では、「官と民」と共に、「営利と非営利」の緊張関係といった視点も重要であること、持続可能な地域活動のためには、資金確保、例えば寄附税制の拡充等が必要であること、地域・個人の自主性多様性が発揮されるためには、とにかくやってみる自由を与える仕組みが必要であること、等が強調された。

(以上)